



柴田 真人 議員

須恵中央駅駅前広場の改造を 歩行者を優先する

■問
須恵中央駅への子どもたちを送り迎える車が時間帯によって歩道にまで乗り上げて待っている状態です。
普段でもUターン場所に駐車しており、次の車が来ても出て行くこともせず居座ったままなので、しかたなく歩道に乗り上げてUターンして出ていく状態です。
駅前広場は狭いと思いますが、何とか知恵を出してロータリー化していただけないか御検討を。



ロータリー化できないのか？須恵中央駅

■答 中嶋町長
ロータリーをつくらうとすれば、幅員が十三メートル必要となりますが、須恵中央駅の間口の幅員は、歩道を含めたところでの十三メートルなので待合室や歩道等を無くさなければなりません。
徒歩又は自転車による利用の方の安全性を損なうことにつながるし、駅舎・コンコースの改良に伴い、それに加えロータリー入り口に新たな交差点を設けるということになる、さらなる交通渋滞・交通事故を誘発することが懸念されます。
このことから改良することは、J R等交通管理者からの同意を得ることはかなり厳しいと思われます。

中央駅のロータリー化に関しては、現在の利用状況から見て歩行者を優先すべきではないかと考えています。

安心安全な食品を 嚴重に注意を払っている

■問
中国から輸入した冷凍餃子に基準値を超える農薬が混入し、世間を騒がせた大きな社会問題となっている。
須恵町においては、保育所・小学校給食に問題の餃子は使用されていなかったか。
給食に使用される地産の食品の割合は、地産地消の推進は行われているか。
日本の食料自給率は三九%と低く、世界の先進諸国の中でも最低の水準となっている。
自給率を上げるための対策や安心安全な食品を食するために、須恵町独自の農業者への支援はあるか。



今村 桂子 議員

■答 中嶋町長
問題となった中国冷凍餃子は使用していません。本町は食からの健康づくりを推進していますので、給食の食材について嚴重に注意を払っています。
地産食品の割合を数値化することは多種多様にわたっているため非常に難しいわけですが、JA粕屋の米を一〇〇%、ジャガイモ・タマネギは国産品で、その内、須恵町で産出されたものが二八・六%です。
また、冷凍食材に中国産を使用している物もありますが、学校給食会での三百五十項目に及ぶ検査並びに細菌検査を行ったものを使用しており、安全性には確保を務めている状況です。

本町単独ではありませんが農用地流動化対策事業補助金というところで、水田の借り手、農業者への助成を行っています。
農業政策については、須恵町の地域水田農業ビジョン、地産づくり計画等、いろいろと須恵町地域水田農業推進協議会により、



小学校給食の様子

毎年策定計画を挙げて進めています。近郊農家で兼業農家あるいは日曜農業というようなところで、農用地を集積し農業政策に取り組むということ以外、規模の拡大も図れないという中では非常に厳しい状況にあります。